



慶應義塾大学ビジネス・スクール

JA長野厚生連佐久総合病院(A)

5

JA 長野厚生連^[1] 佐久総合病院（以下「佐久病院」と表す）は、長野県佐久市臼田に位置する 821 床の病院である（2013 年時点）。2006 年に亡くなった若月俊一（わかつきとしかず）院長による半世紀を超える類まれなリーダーシップを原動力に、「農民とともに」をスローガンに掲げ、農村医療のメッカと評される活動を行ってきた。「ほんとうに良い病院というのは、地域に結びついて、地域住民のニーズに込えているかどうかで決定する」。若月院長はことあるごとに語っていた。20 世紀半ばまでは劣悪な医療環境にあった南佐久地域は、佐久病院の熱心な地域活動もあって、2013 年には日本でも有数の長寿地域に変貌を遂げていた。

10

佐久病院が位置する長野県東信地方の面積は神奈川県に匹敵するものの、人口は 20 分の 1 以下の 42 万人にすぎなかった。一次医療圏である南佐久郡は東信地方の 40% 強の面積を占めるが、人口はわずか 4 万数千人の過疎地域であった。佐久病院は、本院に加えてこの地域に 99 床の小海分院と 1 つの付属診療所を開設し、さらに 5 カ所の国民健康保険診療所に常勤の医師を派遣していた。他に老人保健施設 2 ヶ所、特別養護老人ホーム 1 ヶ所、地域包括支援センター 2 ヶ所、訪問看護ステーション 5 ヶ所を運営し、地域の医療・介護を支える存在であった。

15

20

佐久病院には約 200 人の医師が在籍し、これは大学病院を除いた甲信越地域の病院の中で最多の医師数を擁していた。内科外科の医師のほとんどが大学医局に属しておらず、独自採用であった。他方、県下でも佐久以外の地域では医師不足による医療崩壊が進行し、東信地域でも医師の偏在化が問題となっていた。

25

[1] 2004 年時点での厚生連の紹介が文末「参考」に記されている。

本ケースは、討議の資料とするために、JA 長野厚生連佐久総合病院の全面的協力の下、慶應義塾大学名誉教授 田中 滋による監修を得て、同大学院修士課程 西江健一によって作成された。なお、ケースは経営の巧拙を記述したものではない。本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30